

◆頑張っている人物やグループを
広報編集委員が紹介します。



▲地震前の異常例…広報編集委員 島村立法/絵



南海地震は予知できるのか 市内研究家に聞く

「近い将来必ず起こるとされる南海地震の発生をいち早く知り、救命・減災に生かせないだろうか」「こんな思いを胸に、文献調査や体験者の聞き取りを続け、地震予知の研究に取り組む松下進さん(赤岡町)に話を聞いた。

担当/広報編集委員 島崎 則彦

前夜の体験

「普段はもう寝よる鶏が妙に騒ぐ」。昭和21年12月20日、昭和南海地震発生の前日、小学6年生だった松下さんは、家でそう感じていたという。冬とは思えぬ陽気が続き、この夜もまるで地面から温かさが上がってくるよう、なかなか寝付けなかった。また、後で思えば、近所のおぼの家で数日前から井戸が枯れ「今までこんなことはなかった」と困っていたことも思い出す。それから数時間後に、あの巨大な揺れが襲った。松下さんは、この幼いころの体験が地震を研究する一つのきっかけになったそうだ。

数多い事例

県内でも松下さんのような体験例は数多い。「南海地震は予知できる―地震が残した証拠品」(中村不二夫著)には、100人以上の聞き取り事例が記されている。異常な暑さ、井戸枯れ、動物の異常行動などは数多い。空が真っ赤に染まる異常発光を見たり、「ゴーツ」という音を聞いたという証言もある。また漁師によれば「網に付いた泥が落ちない」「海から海藻が腐ったような異臭がする」「普段は考えられない場所で船底を擦る」といった海の異常例も寄せられている。



自然に謙虚、そして敏感

松下さんは「これらの現象は地震前に起こる地殻変動のためだ」と考えている。ただ、どんな地震でも同じ前兆があるわけではないので、前兆と地震の関係は科学的に立証することは、現時点では困難だという。逆に言えば、一つひとつの現象は地震と関係なく起こることもあるため、ほとんどの人が「これは地震の兆候なのでは…」と思わないという難しさもある。

それでも、「まず自然を謙虚に受け止め、自然の変化に敏感になることが大切」と松下さん。「自分たちは、もちろん、子どもや孫の世代のために経験を後世に伝え継ぐことが、私たちの責務ではないか」と力説する。

情報の集約

確かに素人考えでも、巨大地震の際には、自然に何らかの異常が起こっても不思議ではないと思う。大切なことは、因果関係が科学的に立証されるかではなく、「二つひとつの情報を減災に生かせるか」ということ。「妙なこともあるもんやねえ」で、終わっていた体験を何とかうまく集約するシステムを作れば、一人でも多くの命を救えるかもしれない。地震・津波避難対策とともに、大切な課題ではないだろうか。



松下進さん(78歳)

編集後記

- ▼ 中高年の祭典「スポーツマスターズ」スライディングをする女子ソフトボール選手の姿に感動！くわしくは来月号で(猪)
- ▼ 朝晩が寒くなり、体調を崩しやすい時期です。そんな時は、しょうがを利用しましょう。ワンポイントは30ページ！。(T)
- ▼ 表紙を飾った城山高校。生徒会を中心に、学校行事や部活動、ボランティア活動に奮闘中。活躍の様子は29ページへGO。(S)
- ▼ スイーツからお酒まで、香南まるごと旨市にはおいしいものがいっぱい。送ってうれしい、もらっておいしいグルメギフトです！(あ)

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi.konan.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi.konan.jp

土佐香南 まるごと旨市の

カタログができました
大切な方への贈り物に
香南市のおいしいものをどうぞ…

●問い合わせ
一般社団法人 香南市観光協会
地場産品販売促進部 ☎0887-50-4076

